

平成28年12月12日

各 担 当 理 事
各担当委員会委員長 殿

大学評価専門委員会 委員長

平成28年度計画の自己点検・評価（中間）の確認結果について

平成28年度計画の各担当委員会等は、「第3期中期目標期間における内部質保証の実現に向けた自己点検・評価に関する基本方針」（平成28年9月13日大学評価委員会決定）に基づき、年度計画の現状把握と、それを踏まえた適切な次年度計画の策定に資するため、年度途中（10月1日現在）における自己点検・評価を行った。

大学評価専門委員会では、各担当委員会等が行った自己点検・評価の結果について、「内部質保証の実現」の観点から各年度計画の進捗状況を確認した。

1. 全体的な状況について

全ての年度計画について、年度末までの予定を見込んだ上で、「年度計画を十分に実施している」または「年度計画を上回って実施している」との自己点検・評価がなされており、全体としては順調に実施されていることを確認した。

また、今年度から内部質保証を実現するために、「i）年度計画の進捗状況及び今後の予定、見通し」だけでなく、「ii）生じている課題 及び その課題解決に向けた具体的な取組状況」や「iii）長所となる取組 及び その長所伸長に向けた具体的な取組状況」についても記載を求めているが、これまでより多くの年度計画で課題や長所の把握がなされており、以前より内部質保証の実現につながる自己点検・評価が行われている。

しかし、一部の年度計画においては、課題や長所の整理がなされていなかったり、整理方法に改善の余地があったりする場合も見受けられるため、それらの計画については、下記の共通したコメントで指摘している。これらの「共通コメント」を踏まえて、引き続き課題や長所を把握し、改善や伸長に繋げていくことが必要である。

○共通コメント

（課題の記載がない場合）

「年度評価を通じた内部質保証の仕組みが実質的に機能していることを示すために、中期計画の達成の観点も踏まえて、課題がないか、ある場合は、どのように解決を図るかについて、継続的に検証を行ってください。」

（長所の記載がない場合）

「長所となる取り組みは挙げられていませんが、引き続き、年度評価を通じた内部質保証の仕組みが実質的に機能していることを示すために、中期計画の達成の観点も踏まえて、長所がないか、継続的に検証を行ってください。」

2. 課題・長所の整理について

中期計画や年度計画の内容等に応じて、課題や長所の整理の仕方は様々に異なるが、今後、自己点検・評価を行なう際の参考として下記の事例を示す。

なお、年度計画（中期計画）の進捗状況を確認するとともに、評価の根拠資料を収集・整理することが、本来の趣旨である。このため、課題や長所を整理する際は、その理由や背景を説明するとともに、資料を示して分かりやすく年度計画（中期計画）の進捗との関係性を明記することが必要である。

（1）課題（長所）の把握状況例

- ・ 課題（長所）を把握しておらず、改善（伸長）に向けた取組も認識していない。
- ・ 課題（長所）を把握しており、改善（伸長）に向けた取組を講じている。
- ・ 課題（長所）を把握しており、改善（伸長）に向けた取組を講じているが、抜本的な解決に至っていない。
- ・ 課題（長所）を把握しているものの、その解決（伸長）には非常に困難があり、短期間では成果がでない。
- ・ 課題（長所）を把握しているものの、より大きな問題（人、モノ、カネ、スペース等の問題）があり抜本的な改善策（伸長策）を見出せていない。 など

（2）課題の例

- ・ 「年度計画の達成」に向けて生じている課題
- ・ 「中期計画の達成」に向けて生じている課題
- ・ 課や係レベルの業務面の遂行において生じている課題
- ・ 大学全体の各種制度を改革しないと解決できないような大きな課題
- ・ 国（社会）全体で取り組まないと解決できないような極めて大きな課題 など

（3）長所となる取組例

- ・ 「年度計画の達成」に向けて大きく寄与した取組
- ・ 「中期計画の達成」に向けて大きく寄与した取組
- ・ 他大学にはない本学独自のユニークな取組
- ・ 他大学との比較した場合に際立った取組
- ・ これまでにない顕著な成果が出ている取組 など

3. 課題・長所の次年度計画への反映について

今回の自己点検・評価（中間）で整理した課題や長所については、次年度計画の策定の際に十分に活用し、今後の取組に反映させることにより、引き続き「内部質保証の実現」を図ることが重要である。